

「自ら課題を持ち、友と関わり合って高め合う生徒の育成」

国語科からのNIE発信

指定校1年次 安曇野市立穂高東中学校

小林 かおる 松崎 健吾 荻原 純平

(1) NIE実践のねらい

本校の研究テーマは「自ら課題を持ち、友と関わりあって高めあう生徒の育成」である。本校では新聞を授業の中で活用する価値を次のように考えた。1つ目として、普段の学習が自分の生きている社会にどのような関連を持っているのかに気付くことができること。2つ目として、身近な社会で起きていることについて関心を持ち、普段の学習に結び付けて学ぶ姿勢を作ることで主体的な学びが形成されること。

また、本校の生徒の実態を見ると、狭い友人関係の中でコミュニケーションが上手に結べない生徒がいたり、自分の価値判断で行動をとり周囲に目が向かない生徒もいたりする。そこで、新聞をひとつの入り口として、広い世界に目を向け、世の中に起きている事象や人の生き方を知り、それらについて考えたり、友と意見交換をしたりすることは、自分の価値判断を広げ、自己を振り返らせ、他人とのよりよい関係づくりを構築できるのではないかと考える。

(2) 研究の概要

今年度の取り組みとしてはまず、「新聞に親しむ」ことを一番の目標とし、以下のことを行ってきた。

①図書館を起点とした新聞に親しむ環境づくり。

- ・新聞社より提供して頂いた新聞の閲覧コーナー
- ・教師が作った新聞スクラップの掲示
- ・学習や季節の話題に沿った記事の掲示

②全校生徒での新聞スクラップ

- ・朝の活動の時間を利用した毎週火曜日10分間の新聞スクラップ。
- ・文化祭にて展示。

③国語科・社会科での新聞を利用した学習の取り組み。

【国語科】

- 1年 単元名 新聞について学ぶ 題材「登山新聞を作ろう」
- 2年 単元名 読書と情報 題材「メディアと上手につきあうために」
- 3年 単元名 説得力のある考えを述べよう 題材「批評文を書こう」

- ・1年 行事新聞
- ・2年 「気になる人物」新聞

【社会科】

- ・3年公民

地球市民として

日本を取り巻く政治経済環境問題について各自テーマを決め、新聞を用いてまとめ、発表学習。

- ・政治経済 適宜発展資料として新聞記事を配付。
- ・2年 「気になる話題」各自テーマを決め、新聞スクラップを制作しコンクールに応募。

④生徒が興味をもてる新聞記事の掲示。

国語科準備室廊下や進路学習コーナーに、地域の話や高校生の話や各高校での取り組みの記事を掲示。



⑤新聞・N I E資料の管理

国語準備室でまとめて管理。

各教科で活用可能な新聞記事の選定と提供。

(3) 国語科の実践

今年度はまず国語科から授業での新聞の活用に取り組んできた。夏期休業中の国語科実技講習会においてN I E担当者の方をお招きし、新聞活用の意義や、コラム作成や新聞スクラップづくりの演習をおこなった。また今年度の教育課程研究協議会の研修において、委員の先生方の実践をお聴きしたり、新聞を実際に使ったりしながら記事にまとめた。

8月には1年生のクラスで、7月に行われた燕登山の記事とした新聞制作を行った。お互いに心に残った場面を書いて持ち寄り、読み合いアドバイスし合うことでグループ新聞のテーマを決め、記事を推敲し模造紙一枚の新聞とした。学年全体で国語の授業で、新聞の紙面構成を学ぶことから始め、自分で見出しや記事を工夫しながら制作し、文化祭で展示発表し、多くの方に見ていただいた。小学校で行事の内容を新聞形式でまとめるという経験はあった生徒たちではあるが、紙面の構成や意味について学んではいなかった。1年生という時期にまず新聞の構成を学び、自分でそれを意識して書いたことは、新聞の見方を広げるという点で意義深い学習であったと思われる。

新聞を活用するという点で、教科会ではみんなで新聞を開き、記事を読みあい、授業での活用方法について意見を交わすことを繰り返してきた。これらの活動は、新聞を活用するという点において、互いの研修につながった。新聞のさまざまな記事から考えられる活用方法を今後他教科へも発信していきたい。



授業実践① 1年

1 単元名

新聞について学ぶ 題材「登山新聞を作ろう」

2 ねらい

- 新聞作成において、必要に応じて班員に質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。
- 伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして記事を書く。
- 班ごとに集まったトピックを分類するなどして、整理するとともに、紙面構成を考えて新聞を構成する。

3 内容(研修授業の実践から)

I 単元展開と本時の位置 全7時中の3時

- ① 新聞について知り、登山新聞作成の見通しを立てる(1時間)
- ② 新聞からキーワード探しをする。読者に伝えたい3つのトピックを書く(1時間)
- ③ 班ごとにトピックを読み合わせし、トップ記事および新聞のテーマを設定する(本時)
- ④ テーマ発表後、班ごとにトピックを分類し、トップ記事からその他4つの記事について紙面構成の話し合いをし、各記事の担当および題字を決定する(1時間)
- ⑤ 前時に決定した割り当てに従って、個人で記事の下書きを作成し見出しを付ける(1時間)



⑥ 班内で記事を読みあい、推敲する（1時間）

⑦ 模造紙に新聞の清書を行う。その後2つの班に発表をさせ、意見・感想を交換する（1時間）

II 本時案

過程	学習活動	予想される生徒の反応(○)	指導(・) 評価(※)	時間
導入	1 本時の学習問題および、学習課題の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習問題】自分たちの班のトップ記事とテーマを設定しよう。</p> </div> <p>○今日は、自分たちの登山新聞のトップ記事とテーマを決めるんだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】仲間のトピックから伝えたいことを読み取り、班内でトップ記事とテーマを設定しよう。</p> </div>	<p>本時の活動を、冊子『新聞を作ろう』をもとに端的に説明し、学習問題と学習課題を板書する。</p>	5
展開	<p>2 前時の振り返り</p> <p>3 トピックの読み取り</p> <p>小さい付箋にキーワードを書き出す。</p> <p>大きい付箋には、書き手が伝えたかったことを書き出す。</p> <p>4 付箋の読み合い、話し合い</p>	<p>○実際の新聞で行った、キーワード探しを振り返ろう。</p> <p>○キーワードを見つけて付箋に書いていくんだな。</p> <p>○大きい付箋には、書き手の伝えたかったことを考えて書くんだな。</p> <p>○～君のトピックでは、ご来光について書いてあるな。</p> <p>○～さんは、高山植物について伝えたかったんだな。</p> <p>○～君のトピックでは、自然がキーワードになるのかな。</p> <p>○～さんはみんなで協力できたことが一番伝えたかったのかな。</p> <p>○同じ登山体験でも、印象に残ったことってこんなに違うんだな。</p> <p>○私たちの班では、ご来光について書いた人が多いな。</p>	<p>・黒板に前時に使用した新聞を掲示し、振り返りをする。</p> <p>・本時では、各班員が書いたトピックからキーワード探しと、伝えたいことを読み取る活動を行うことを確認する。</p> <p>・机間指導し、テーマを確認させながら、そのテーマに沿った新聞作りを進めるよう指示する。</p> <p>・協力して活動に取り組むように声をかける。</p> <p>※書き手のトピックの中心的部分を読み取り、付箋に書いている。</p>	<p>1 0</p> <p>1 5</p> <p>1 5</p>

	トップ記事、テーマの設定	○トップ記事にご来光を載せたいな。 ○テーマは、自然の美しさ、山の美しさ、にしようか。	※書き出した付箋を読みあいながら、トップ記事の内容を選び、班員と協力しながらテーマを決め出している。	
まとめ	5 本時の振り返りと次時の活動の確認。	○今日決めたテーマに沿って、新聞を作っていくんだな。	・本時で決め出したテーマが、今後の新聞作りの核になることを伝え、本時を振り返る。	5

4 考察

○本時の授業から

本時では、登山新聞のテーマとトップ記事を決めるために、あらかじめ個々に書かせた3つのトピックを読み、キーワード、伝えたいことを読み取るという活動を行った。その際に、トピックが書かれた原稿用紙にサイズの違う付箋を貼らせ、「キーワード」「伝えたいこと」を書かせた。原稿用紙に付箋を貼らせることで視覚的に、一目見て各班員が読み取った内容を共有することができ、理解の助けとなった。しかし、各原稿用紙を1部ずつしか用意しておらず、具体的にトピックのどの部分から読み取ったのか、ということが不明瞭となり、1度読んだものをまた読み直すといった具合に活動に滞りが生じてしまった。

また、トップ記事とテーマを決めることが本時のねらいとしてあったが、肝心なトップ記事とテーマとの密接性が生徒にうまく伝わっていなかった点が反省点としてあげられる。比較的スムーズに進行した、付箋を用いたトピックを読み合う活動と、テーマ、トップ記事を決める活動がうまく結びつかず、生徒が苦戦する様子が見られた。

○成果

本単元に入る前までは、自分の書いた文章に自信が持てず、書く活動に対して苦手意識がある生徒が多い印象があった。しかし、登山で体験した様々な出来事を誰かに伝えたいという欲求からか、たいへん意欲的に各学習活動に取り組む姿勢が見られた。

特に学習が遅れがちな生徒については、グループでトピックを読み合い、それを元に記事を作成していく中で、班員に支えられながら適切な文章表現を心掛けることができた。そして、登山新聞という、一つの作品を自分たちの力で創り上げることで、自らの書いた文章に自信が持てるようになったと感じる。また、他者が書いたトピックから、キーワードと伝えたいことを正確に読み取る意識を持たせること、仲間の読み取った内容を付箋から把握し、自分の読みと比較することを通して、文章の要旨を捉える力を養うことができた。

学級全体としては、新聞記事という特殊な形式の文章を書くことを経験することで、本単元後における書く活動では、読み手を意識した文章を書こうとする意識が徐々に身につけはじめているように思われる。

○今後の課題

トップ記事とテーマが新聞で中心的な役割を担っていることを理解できていない傾向が見られたので、新聞の紙面構成を理解させるための時間を十分に確保するべきだった。

テーマが「自然」に偏りがちであったので、登山に行く前に予めいくつかの観点を示して、テーマを幅広く決められるようにするべきであった。あるいは、登山そのものをテーマにし、バラエティに富んだ記事構成にしても良かったかもしれない。

これらの点に関して、来年度以降登山新聞を作成する際に考慮していきたい。

*使用した資料

『新聞を作ろう！』信濃毎日新聞社

1 単元名

単元「読書と情報 技を伝える」題材「メディアと上手につきあうために」

2 ねらい

さまざまな資料の中から、自分に必要のある情報を選択し、その内容を読み取って自分の考えに生かす力をつける。

3 内容

教科書「メディアと上手につきあうために」(池上彰)を読み、発展学習として「テレビにもの申す」として、メディアに関する新聞記事や資料を読み取り、段落構成を意識して資料を基にした根拠を明らかにして自分の主張を書いた。

4 考察

○課題に関わる生徒の姿(新聞記事を扱う点に関して)

新聞スクラップや気になる人物新聞づくりなどをおこなってきており、新聞記事にはだいぶ親しんできた。本単元では新聞記事を扱い意見文を書くことによって、自分に必要な情報をたくさんの記事の中から見つけ出し、その内容を読み取ろうとする姿勢がみられた。また、今回は生徒にとって最も身近なテレビというメディアの問題点について取り上げることによって、比較的全員が身近な話題から書き進めることができ、また普段の自分のテレビとのつきあい方からメディアの特性について考えることができた。

○成果

中学生が読み取りやすいように十分に内容の練られた池上彰さんの評論文を、モデルとして、文章の書き方や構成の工夫を参考とし、パターンを与えて、書かせることにより意見文の構成を意識して自分の意見を組み立てていくことができた。また本時でモデル文を与えたことによって、視覚的にもわかりやすくどのように書いていけば良いのかが理解できたようだ。

NIEなどと構えることなく、身近で学習に必要な内容が載っていたので活用することができた。今の時代を生きる生徒に必要なメディアについて考える教材は増えている。さまざまな記事に目を向けること、同じ内容でも表現の仕方によって、読み手の視点も変わることなどに気づくことができた。

○新たな課題

学年の学習段階を考え、今回は教師がテレビという話題の新聞記事を集め、生徒に提示するという方法で進めたが、次のステップとして、自分の書きたいテーマを自由に選ぶことからはじめ、そのための資料の収集や選択を自力で進めていける学習に進んでいけたらと思う。1年から3年の発達に考えて実践していきたい。

*使用した新聞記事

BETWEEN 読者とつくる 最近のテレビ番組はつまらない 朝日新聞

香山リカの心の万華鏡 信用できる情報源とは 毎日新聞

怪しいTV欄 テレビ報道のお国柄 信濃毎日新聞

ニュースQ3 収録中に相次ぐ芸能人のケガ笑えない制作の裏側 朝日新聞

テレビ危うさ見え隠れ 芸能人保護報道 朝日新聞

10大の声 日本はもっと情報発信を 14歳 産経新聞

みんなの広場 おいしい朝食を提供して 17歳 毎日新聞

テレビランキング 視聴率 朝日新聞

1 単元名

単元「説得力のある考えを述べよう」 題材「批評文を書こう」

2 ねらい

情報を取捨選択し、引用することで根拠を深め、批評文の形式に沿って自分の意見を書き上げることができる力をつける。

3 内容

I 単元展開と本時の位置 全7時中の6時

- ①教科書「批評の言葉をためる」を読み、「批評」をすることに興味をもたせる。(1時間)
- ②教科書「批評文を書こう」を解説し、批評文の書き方を学ぶ。(1時間)
- ③4つのテーマから興味のあるものを選び、新聞の情報を活用して批評文の下書きを作成する
 - ・中国と尖閣問題について (3時間)
 - ・原発問題について
 - ・若者の仕事観について
 - ・スポーツマンシップについて
- ④テーマごとグループになり、お互いの文を読み、4つの観点に沿ってアドバイスをを行う。
 - ・書き出しの事実確認は的確に捉えられているか。(1時間)
 - ・評価すべき点・評価できない点は根拠が明確で説得力があるか。
 - ・資料が適切に引用されているか。
 - ・まとめは全体を受けての自分の考えとしてまとめられているか。
- ⑤アドバイスを参考に、改めて新聞を活用し、批評文を作成する。(1時間)

II 本時案

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導 ※評価規準	時間
導入	1 本時の学習問題および、学習課題の確認。	<p>【学習問題】どのようにすれば説得力のある批評文になるだろうか。</p> <p>・説得力を高めるためには観点を捉えることが大切だったな。</p> <p>【学習課題】4つの観点に着目してグループでアドバイスをしあい、より説得力のある文章を書こう。</p> <p>・今日は自分たちの批評文を観点に沿ってアドバイスしあうのだな。</p> <p>・お互いの文章の改善点について、アドバイスしあおう。</p>	<p>・本時の活動を、教科書「批評文を書こう」をもとに端的に説明し、学習問題と学習課題を板書する。</p> <p>・本時では4つの観点に着目して、お互いの批評文の問題点を指摘しあう活動を確認することを確認する。</p>	10
	2 アドバイス会を行い、観点到った助言を行う。	<p>・この表現の仕方がわかりやすいから、評価を付箋に書こう。</p>	<p>・以下の4つの観点に着目する。</p>	25

展開	3	<p>アドバイスをもとに推敲を始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この根拠はまとめとつながっていないな。 ・私は〇〇の立場を参考に書いてみました。 ・このアドバイスについてもっと詳しく聞いてみよう。 ・ここの表現はより適切な語句があるから教えてあげよう。 ・この根拠は説得力が足りないから、もっと資料を活用したほうが良いな。 ・この人の根拠に対して不要な情報があるな。 ・この部分はどうやって直せばよいか、具体的に教えてほしいな。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 書き出しの事実確認は的確に捉えられているか。 ② 評価すべき点・評価できない点は根拠が明確で説得力があるか。 ③ 資料が適切に引用されているか。 ④ まとめは全体を受けての自分の考えとしてまとめられているか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・批評文を読み合い、拡大コピーしたものに観点に色分けされた付箋にコメント・アドバイスを書く。 ※お互いの主張や意見、根拠の説得力について、観点に沿って助言をしている。 ・アドバイス会の中で気づきあったことはメモにとっておくよう指示する。 	10
	まとめ	4	<p>本時の振り返りと次時の活動の確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度よく読み返して文のつながりと根拠がはっきりしているかを確認しよう。 ・この根拠の説得力を上げるために、記事を読み返して引用しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文を読み返し、アドバイスをもとに文を直すこと、資料の取り入れ方を考えることを確認する。 ※根拠を明確にするためにはどういった表現の工夫や資料の引用をすれば良いか考えている。

4 考察

今回の授業で批評文を扱ったことは説得力のある文章を書く上で有効であったといえる。新聞を資料として活用したことは、批評文を具体的に作る上で大いに有効であった。

4つのテーマに分けたことについて

尖閣問題や原発問題は現在新聞でも2日に1度は記事が載るような問題でもあり、社会科学でも取り扱った内容であったため、難しい問題ではあったが抵抗なく批評に取り組むことができた。また、就職やスポーツの問題も、自分たちにとって身近に感じられるもので

あったため意欲的に取り組めた。

反面、注意すべき問題であったのは、批評を書く上で重要な「評価できる点」について生徒たちが自分なりに考察していくには難しすぎる問題であったため、「まとめ」とのつながりが弱くなってしまいう生徒もいた。資料集めの時点で、「評価できる点」の導き出しやすいものを選ぶことも大切だった。

新聞を活用したことについて

自分の意見に基づく根拠を明確にすることができた。普段根拠立てて書くことが苦手だった生徒も、情報を分析し、まとめることができた。

課題として、根拠とまとめの内容を充実させるために、資料の中の事実と意見の読み分けを明確にする活動を行うことが重要であった。

4つの観点に着目させ、グループに分けてアドバイスをを行ったことについて

グループの仲間の批評文を読み、アドバイスをすることは、仲間の「まとめ」を尊重し、改善点を明確にすることに効果的であった。観点に沿ってアドバイスをすることは有効であったが、4つの観点について1時間の授業の中で吟味することは、時間的に難しかった。ポイントを絞ることで、ひとつひとつの観点の内容を濃くすることも大切であった。資料については、テーマごと同じものを使ったことから、アドバイスも資料を用いての具体的なものであり、お互いに困っている点について円滑に話合うことができた。

前時にお互いの批評文を読み、付箋を貼る活動を行ったことは、お互いに意見を言い合う助けとなり、また次時での清書のために改善点をまとめる上でも有効に活用できた。



(4) 次年度に向けて

本年度は、NIE 実践 1 年次であったが、普段新聞をほとんど読まないという生徒が多数いたため、まずは学校全体で新聞への関心を高められるよう、年度を通して全クラスでスクラップブックに取り組んだ。新聞に触れる時間を作り、新聞への抵抗を軽減し、新聞を身近な物にするという意味では大変意義のある活動であったが、記事の選出や文章の量など、取り組み方に関しては各学級担任に一任していたため、学習活動としての成果はいささか疑問が残る結果となった。次年度は学校全体で統一した基準を設定し、ただやるだけではなく、学習効果の向上を目指して工夫したい。

国語科としては上記の授業実践や、数回にわたる年間の研修を通して、改めて新聞を活用した授業の可能性を強く感じた 1 年であった。次年度は本研究を社会科に引き継ぐが、教科の枠を超えて課題を共有し、ねらいを達成できるよう取り組んでいきたい。